

広報を作成してきた歴代の担当者に
いくつかのアンケートを実施！

思い出話、大変だったこと、今だから
話せる話などを思い切って聞いて
みました。



- ・いろいろな面で定型がないため、自分が取材し、書きたいことを記事にできるという部分が好きでした。自分の考えや思いを率直に伝え、それが通ったときは心の中でガッツポーズをしました。

Q3. 今だから話せるエピソードや裏話は？

- ・30数年前、広報統計係のカメらは、絞りやシャッタースピードなどを自分で設定するタイプのものでした。自動で撮影できるカメラになったときには、「やっとこれでピンボケが減るー！」と喜んだものです。また、当時は、町勢要覧等の写真も広報統計係が撮影していましたので、その日の天候、被写体に合わせ、フィルムのメーカーや種類を選んでいました。
- ・行事等で外勤をして写真を撮りに行くのが、気分転換になりました。カメラもフィルムの時代で、たくさん撮り、その中から表情の良いものを選んでいました。その後、デジタルカメラになり、枚数を気にすることなく撮ることができ、撮った写真をその場で確認することもでき、便利になったと思いました。
- ・初仕事となった平成11年統一地方選挙の写真撮りの際、当時はフィルムカメラを使用していましたが、扱いがよくわからず、フィルムが撮り終わっていない状態で蓋を開けてしまい感光させてしまいました…。どうすればよいか分からず、投票事務に従事していた職員に聞いて対処し、なんとか事なきを得ました。
- ・2018年8月号裏表紙のぷっちーなの笑顔日記を開始したきっかけは、剣淵神社祭でした。表紙やトピックス用にと剣淵神社祭での取材撮影をしていましたが、お稚児さんや神楽、露店などで、数多くの素敵な写真が撮影することができました。優柔不断な私はこの中から1、2枚を選定することができず、「いっそのこと裏表紙で、良い写真は全部使おう！」ということからできたコーナーでした。

現職の歴代広報担当者に聞いてみた！

私の広報けんぶち

Q1. 広報をつくる中で、特に大変だったことは？

- ・新型コロナウイルスの影響で行事が中止となり、紙面づくりが大変でした。
- ・イベントは休日に実施されることが多いため、平日の業務に加えて休日の取材が大変でした。
- ・校正作業の漢字や慣用句、言い回しなどの確認が大変でした。今のようにインターネットが普及していないため、何度も辞書を引いて確認していました。
- ・毎月特集を取り上げていたため、特集記事の企画立案・作成が大変でした。
- ・町民の皆さんが見て楽しんでもらえるにはどうしたらいいか紙面づくりに悩んでいました。
- ・異動前にしていた業務とは全く異なる業務だったため、写真撮影では試行錯誤の連続でした。

Q2. 広報をつくる中で、特に嬉しかったことや楽しかったことは？

- ・「我が家のアイドル」のコーナーが現在も、形を変えつつ続いていることです。
- ・イベントや学校行事などの際にカメラを向けると、町民の皆さんがとても素敵な笑顔を見せてくれたことです。
- ・赤ちゃんの写真を撮りに行くことが、楽しかったです。辛い時も赤ちゃんの顔をみると癒されました。
- ・取材先の方とお話をしたことがきっかけで関係性ができ、現在も繋がりがあることです。
- ・全て手作業だった原稿作成が徐々に電子化していく過程が楽しかったです。

- ・街並み整備補助金を活用してオープンした燗し家を記事にした号です。作成した記事をお店の紹介として店内に掲示してくれたことは、広報冥利に尽きると感じました。
- ・私が担当した 2018 年 8 月号から「わが家のアイドル」のコーナーで 20 年後の未来のお子さんに向けたメッセージを掲載するようにしました。20 年後の成人式の時にお子さんが読み返したときに、自分の両親がどのような思いで自分を産み、どのように成長してほしかったのかを伝えることができれば素敵なのではないかと始めました。どの年代においても「より多くの町民に読んでもらいたい、少しでも町民の目を引くような内容にしたい」という担当者の思いは同じなのだと実感しました。

こんな失敗談も・・・

- ・初めてひとりで取材に行った、小学校の入学式でのこと。当時の町長の挨拶は短いことを知らなかった私は、カメラの絞りやシャッタースピードを合わせているうちに挨拶が終わってしまい、取材に来ていた新聞記者の方から写真を譲っていただいたことを覚えています。



《編集後記》

今回、町職員として勤務する現職の歴代広報担当者にお話を聞く中で、様々な視点から「より良い広報を作り、町民の皆さんに届けたい」という気持ちで紙面をつくっていたことがわかりました。

今月で 700 号を迎えた「絵本の里広報けんぶち」ですが、これからもわかりやすく、正確に情報を伝え、読むのが楽しみになる紙面づくりに励み、今まで担当された方々の思いをつなげられるよう現担当者も精一杯作成に取り組んでいきます。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

- ・広報の腕章を付けるとどこにでも取材に行けることです。チアリーディング日本代表メンバーの合宿や人数制限があるコンサート、講演会などを端の方で楽しませていただいたことです。

担当者それぞれで思い出があるようですね。その中で比較的多かったのはカメラに関することでした。昔使用していたカメラと現在使用しているカメラは全然違いますね。

現担当者としては、どんどん便利になっているということを実感しました。使いこなせるよう頑張ります！



Q4. 作成した広報紙の中で特に印象深い号は？ またその理由は？

- ・2010 年 9 月号で軽トラマルシェの紹介特集ページを作成したことです。少し雑誌風に作成したことです。



- ・毎回原稿を何度も読み返し、表現や字句の誤り、内容が適切かといったことを続けていたことを思い出します。特にこの号がというものはなく、毎回が大変だったというイメージが強いです。
- ・特定の号ではないですが、町の予算・決算を掲載する号で見栄えのするグラフ作成に試行錯誤していたことが、印象に残っています。
- ・新築で完成した剣淵高等学校を紹介した号です。学校といえば、コンクリートの壁で無機質というイメージでしたが、木目がきれいな壁に驚き、とても暖かみを感じる高校でした。この素晴らしい学校を町民の皆さんに知っていただこうとたくさんの写真で紹介したことを覚えています。